

Life science and Transfer Technology

第 **5** 期 事業報告書
2006年4月1日~2007年3月31日



独創的研究開発の創薬事業、拡充するヘルスケア事業で 経営基盤の強化をはかる新生LTTバイオフーマ

医療機関経営支援事業の株式会社アスクレピオスと完全子会社化の株式交換契約を締結

社長就任の抱負をお願いします。

山中：LTTバイオフーマが創薬事業を柱として、収益安定をはかるため調剤薬局やアンチエイジング・クリニック支援事業をたち上げ、ヘルスケア事業部を新設したことを知り、ぜひ医療機関経営支援事業をリンクさせたいと思っていたのですが、この度実現することができ嬉しい限りです。LTTの先進性は業界でも認識されていますので、その評判を落とすことのないよう、同事業を加えて多面的に「人類の健康と福祉へ貢献する」という経営理念に則った事業を遂行していきたいと思います。



代表取締役会長 水島 裕

当期業績の主な数字を教えてください。

水島：連結の売上高は1,267百万円、経常損失は553百万円、当期純損失は583百万円となりました。創薬事業に関しては、ロイヤリティ収入は減少していますが、受託研究に係わる売上が計上され、売上高は194百万円となっております。調剤薬局事業は好立地ということもあり安定した売上を計上し、売上高は1,073百万円となりました。

創薬バイオベンチャーの市場動向と研究開発状況についてお聞かせください。

水島：バイオベンチャーが最も盛んなのは米国ですが、その米国でも創業主体のベンチャー企業が黒字経営を続けるのは大変難しい状況です。やはり薬物の研究開発には時間がかかりますから、研究を続けていくための資金というのは重要なファクターとなるんですね。ただ、世界的な傾向としてナノテクノロジー分野が好調な伸びを見せており、ナノテク創業の市場も2012年には25億ドル規模にまで成長するだろうと予測されています。我々が研究している分野というのは世界的に耳目をひいているのは間違いありません。

現在いくつかの創薬開発をすすめています。なかでもレシチン化SOD、ナノステロイド、ナノPGE₁は有力な製剤として注目されています。



パイプラインのなかで最も注目されるレシチン化SODについて教えてください。

水島: SODは約40年前に発見され、最も強力な抗活性酸素物質として夢の薬とも言われてきましたが、いまだ実用化はされていません。現在、当社では独自の技術によって作製したレシチン化SODの上市に向けて治験が進行中ですが、原因不明の炎症性疾患である潰瘍性大腸炎に対して顕著な効果が認められた他、難治性肺疾患である間質性肺炎や近年増加している加齢黄斑変性症に対しても効果があることが確実となっています。これが上市されればおそらく世界初のSOD製剤として、難治性疾患で苦しむ人への福音となるはずです。

今後の事業戦略、中長期の展望についてはどうお考えですか。

水島: 現在のところ、レシチン化SODの上市をスムーズかつ公正に進めることを第一に考え、治験の最終段階まで責任を持って関わっていきたくと思っています。当社の研究開発部門には優秀な人材がおりますので、今後DDSに限らずさまざまな創薬研究に挑戦していく体制をつくっていくつもりです。そして、ベンチャー企業の自由闊達さを芯に持ちつつも、しっかりとした経営基盤があるという企業スタイルを形成していきたいと考えています。

ヘルスケア事業での新しい展開と、経営体制についてお聞かせください。

山中: LTTはいままで有益な製剤の上市をなしとげ、いままた画期的な薬物開発をすすめている日本でも



代表取締役社長 山中 譲

有数のバイオベンチャー企業です。その独創性には早くから注目していましたが、今回の子会社化により我々がすすめてきた医療機関経営支援事業とリンクし、創薬研究の資金強化による開発の促進はもちろんのこと、医療全体を躍進させる企業としてさらに力を強めてまいります。

水島: 創薬事業に関しては今までどおり私の主導で開発研究を進め、ヘルスケア事業に関しては安定収益をはかるという目的を持って山中が主導していくこととなります。日本でのバイオベンチャーの成功例として新しいビジネスモデルを示したいと考えています。ぜひ新生LTTにご期待ください。

※専門用語につきましては、ホームページ
<http://www.ltt.co.jp/?cat=8.html>をご覧ください。

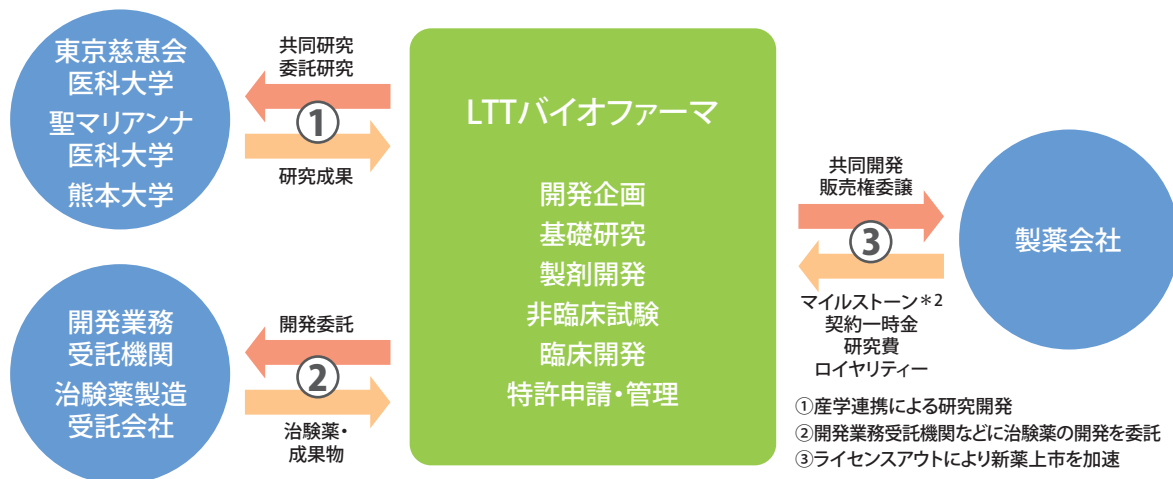
LTTバイオフーマは、産学共同によるスピーディーでリスクの少ない新薬開発モデルで、人類の健康と福祉に寄与する企業であり続けます。

当社は、DDS（ドラッグデリバリーシステム、薬物送達システム）製剤の開発を主要な目的とし、研究開発に特化した事業を展開しています。当社の基本的な開発フローは、既に患者に使用されている薬剤の改良についての研究を出発点とし、基礎研究の宝庫である大学との委託・共同研究を核に産学連携の研究開発を推進します。実用化が見込まれた場合は特許申請、学会発表を行い、製薬会社へのライセンスアウト*¹と共同開発により、早期の製品化・上市を目指しています。

医薬品業界では、新薬の開発が重要な課題となっていますが、長期間にわたる開発コストは増加の一途をたどり、大手製薬メーカーといえども開発リスクには慎重にならざるを得ない状況があります。そのようななか、上市を加速する当社の産学連携DDS開発モデルは、一般的な新薬と比較して開発期間の大幅な短縮と開発コストの抑制を可能としています。LTTバイオフーマは産学コラボレーションネットワークを海外にも広げ、引き続き研究開発に邁進し、人類の健康と福祉に寄与し続けています。

*¹ ライセンスアウト…特許の実施権を許諾して、技術の導出を行うこと。

■産学連携による新薬開発モデル

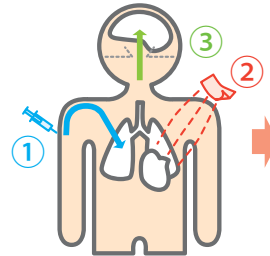


*² マイルストーン…契約に基づき、研究開発の進捗状況（予め設定された内容の達成度）により受け取る収益。



DDSは薬の量と投与回数を減らし、副作用の軽減とQOL*の向上を促進します。

薬には生体内では速やかに分解されて、患部に達する前に効力がなくなる成分もあり、治療のためには必要以上の量と回数の薬が投与されることがあります。また、必要のない部位に作用し副作用を引き起こすこともあります。薬のもつこのような欠点を改善する技術がDDSです。DDSは必要な量の薬を、目標とする患部にのみ効果的かつ集中的に送り込み、必要な時間帯だけ作用させることにより、投与する薬の量、回数、副作用を大幅に軽減することが可能です。さらに、これまで治療が困難とされてきた様々な疾病の治療に対する効果が認められており、大きな期待が寄せられています。



有効性の増強
副作用の軽減
利便性の向上

DDSの3大テクノロジー

①ターゲッティング

抗ガン薬が薬物(抗癌抗体やナノ粒子)に乗って癌組織に重点的に運ばれる

②放出制御(徐放)

狭心症の薬が入った貼り薬。少しずつ薬が放出し長時間効く

③バリアー通過・吸収促進

薬は脳へ行きにくい、そのバリアー通過を促す

*QOL…クオリティーオブライフ(Quality of Life)の略。直訳では生活の質の意味。最近では、生命維持や苦痛除去という治療だけではなく、心身ともに質の高い生活を送ることが望まれている。

■ DDS製剤開発ステージと当社の優位性

一般的な医薬品
開発の場合

2~3年

3~5年

3~7年

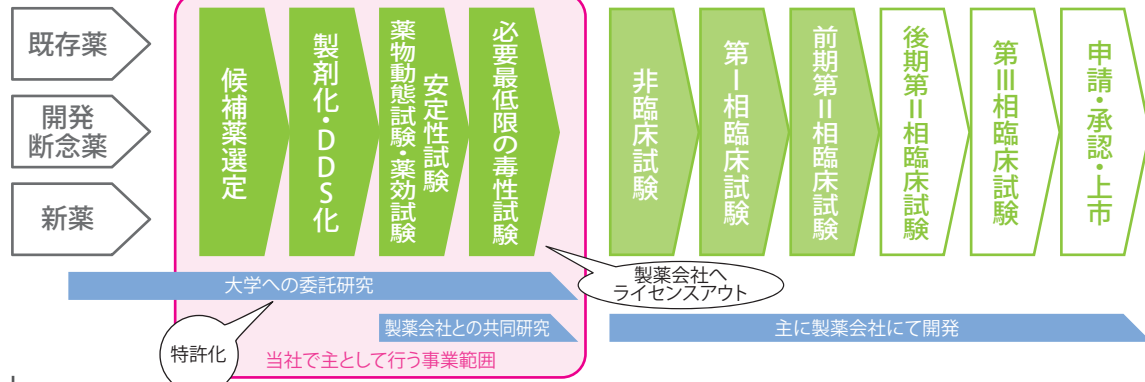
1~2年

DDSの場合

1~2年

3~6年

1~2年



早期の製品化・上市、開発リスクの低減

DDSの研究開発は順調に推移し、 PC-SODの研究では顕著な進展が見られました。

当社は、大学その他の最先端研究グループ及び製薬企業と連携しながら、右記のパイプライン*を中心に研究開発を着実に進めています。現在のパイプラインのなかで、PC-SOD（レシチン化SOD）、AS-013、ナノステロイド製剤はいずれも世界初の発明で、医療に革新的な効果をもたらすと考えられるものです。特にPC-SODに関しては、SOD製剤として世界で初めて潰瘍性大腸炎に対する効果が確認され、さらに治療法がまだない特発性間質性肺炎の臨床試験も開始しますので、今後の進展が注目されています。

*パイプライン…開発を行っている医薬品候補の中身という意味で使われます。パイプラインの数と充実度が、製薬会社の競争力を表しているともいわれます。

Closeup

特発性間質性肺炎の臨床試験開始

既に実施した臨床研究で他の治療薬では効果がない6名の患者に対して、PC-SODで良好な成績が得られたことに基づき第II相臨床試験を開始致します。本治験は、特発性間質性肺炎と診断された20～80歳の成人を対象として、多施設共同・プラセボ対照・二重盲検・探索的試験としてその有効性と安全性を評価するものです。日本国内10施設の専門医療機関にて約50名の被験者の登録を目標に実施されます。

■ 開発中の製剤(2007年5月現在)

開発パイプライン	DDSのタイプ	対象疾患
PC-SOD	ターゲッティング	強力な抗活性酸素剤 抗がん剤の副作用防止、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎、脳血管障害、加齢黄斑変性症など
AS-013	ターゲッティング	糖尿病や動脈硬化などが原因で起こる末梢血管病変
ナノステロイド製剤	ステルス性 ターゲッティング 徐放	関節リウマチ、気管支喘息、花粉症など
ナノPGE ₁ 製剤	ステルス性 ターゲッティング 徐放	糖尿病や動脈硬化などが原因で起こる末梢血管病変
G-CSF徐放製剤	徐放	抗がん剤による白血球減少など



コア技術	開発段階・進捗状況	承認・上市の見込み	提携企業
<p>活性たんぱく質の化学修飾に関する技術</p> <p>活性たんぱくにリン脂質（ホスファチジルコリン、ホスファチジリエタノールアミンなど）誘導体を共有結合させることにより、ターゲティングさせる技術。</p>	<p>第II相臨床試験</p> <p>自社で臨床試験を進めております。オランダではドキソルピシン誘発心筋症に対する第II相臨床試験を実施中です。また、国内においては、活性酸素が原因のひとつといわれている潰瘍性大腸炎に対する前期第II相臨床試験が終了し、1日40mgの投与で効果があることが確実となりました。今後の展開につきましては、自社開発、共同開発の双方より検討中です。特に、間質性肺炎については申請までを自社で行うことを検討中です。</p>	2008～ 2009年度	旭硝子(株)
<p>リポ製剤の作製技術</p> <p>大豆にPGE₁エステル(化)化合物を溶解した直径約200nm(ナノメートル:10億分の1メートル)の粒子の表面をレンチンでコーティングしたDDS製剤で、炎症部位や血管病変部位にターゲティングされます。</p>	<p>第III相臨床試験</p> <p>三菱ウェルファーマ(株)が米国で第III相臨床試験を実施中でありましたが、終了し期待される結果が得られませんでした。結果を解析し追加試験の実施を検討中です。同社から開発の権利を全て移管してもらう契約を準備中であり、今後の展開につきましては、自社開発、共同開発の双方より検討中です。</p>		旭硝子(株)
<p>ステルス性・ターゲット・徐放製剤の作製技術</p> <p>リポ製剤と同程度の大きさの粒子で、大豆油の代わりに生体でゆっくり溶解する素材(ポリ乳酸)を用いることにより、ターゲットするだけでなく、徐放の性質を併せ持つ製剤。さらに表面をポリエチレングリコールで被覆することによってステルス性(肝による取込み抑制)を併せ持っています。リポ製剤と同様に炎症部位や血管病変部位にターゲティングされ、さらに徐放スピードが調節可能です。</p>	<p>基礎研究</p> <p>製剤化の基本条件が確立しましたので、インドの製薬会社Cipla社に技術移管して非臨床試験及び治験薬の製造準備を開始しました。</p>	2009～ 2010年度	インドCipla社
	<p>基礎研究</p> <p>熊本大学と共同研究を実施しております。</p>	2010～ 2011年度	
<p>たんぱく医薬の徐放性製剤の作製技術</p> <p>生体内において短時間で活性が消失してしまうたんぱく医薬品を沈殿化することによって徐放化し、作用を持続化した製剤技術。連日投与の医薬品を週1回の投与とするなど、治療の利便性、患者の負担軽減が図られます。</p>	<p>基礎研究</p> <p>ハイドロキシアパタイトをキャリアとした製剤も併せて検討中です。</p>	2010～ 2011年度	

上市した主な医薬品

■ 静注用プロスタグランジンE₁製剤



パルクス®注／大正製薬(株)



リプル®注／三菱ウェルファーマ(株)
(旧(株)ミドリ十字・吉富製薬(株)・ウェルファイド(株))

エグランディン(韓国)／ウェルファイド코리아(株)
(旧 韓国緑友製薬)

凱时(中国)／北京泰徳製薬有限公司

■ 静注用非ステロイド鎮痛消炎剤



ロピオン®注／
科研製薬(株)

その他の医薬品につきましてはホームページをご覧ください。

<http://www.ltt.co.jp/works05.html>

主な保有特許(2007年5月現在)

PC-SOD関連特許

- 経口及び局所投与用生物活性蛋白組成物
- 修飾生物活性蛋白
- レシチン化スーパーオキシドディスムターゼおよびそれを有効成分とする医薬
- レシチン化スーパーオキシドディスムターゼ含有医薬組成物
- 心筋傷害処置剤
- 間質性肺炎治療剤
- レシチン化スーパーオキシドディスムターゼ組成物およびその製造方法

AS-013関連特許

- プロスタグランジン類縁体およびその脂肪乳剤
- プロスタグランジン類縁体
- 精製されたプロスタグランジン誘導体の製造方法
- 下肢切断手術の予後を改善する治療剤

ナノステロイド製剤関連特許

- 静脈注射用組成物、その製造法及びその製剤
- 徐放性ターゲティングを目的とした静脈注射用ナノ粒子製剤とその製造法
- 水溶性非ペプチド性低分子薬物含有ナノ粒子

G-CSF徐放製剤関連特許

- 亜鉛含有徐放性組成物、その製剤及びその製造方法

ナノパーティクルテクノロジー関連特許

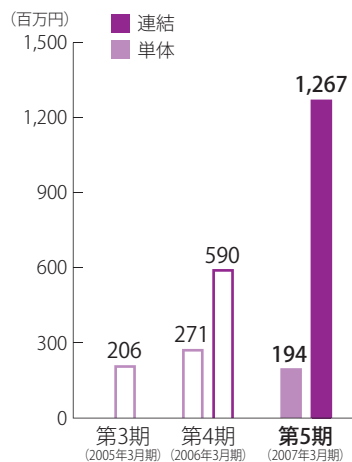
- 徐放性組成物、その製造方法およびその製剤
- 薬物含有徐放性微粒子、その製造法、及びそれを含有する製剤
- 薬物を含有するナノ粒子およびその製造方法、ならびに当該ナノ粒子からなる非経口投与用製剤

その他

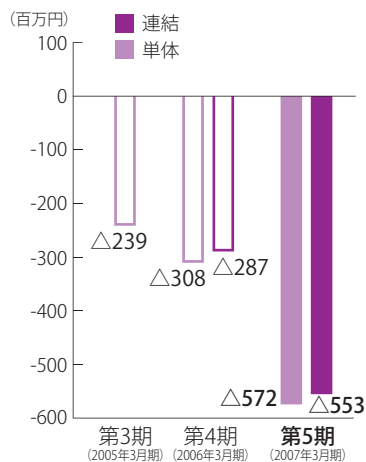
- ピリドンカルボン酸化合物含有エマルジョン
- 胃粘膜に安全な化合物のスクリーニング方法
- 錠剤の打錠杵又は臼
- 金属の表面処理方法



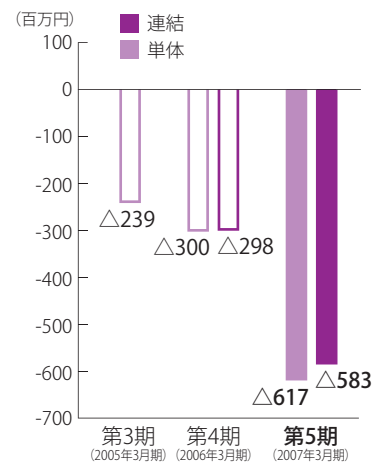
売上高



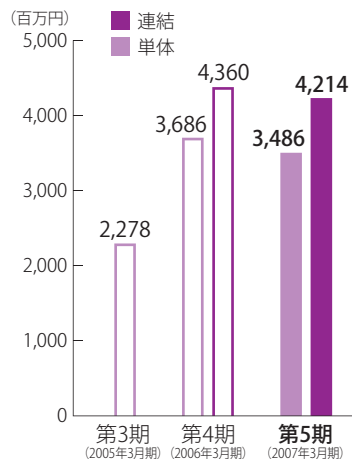
経常損失



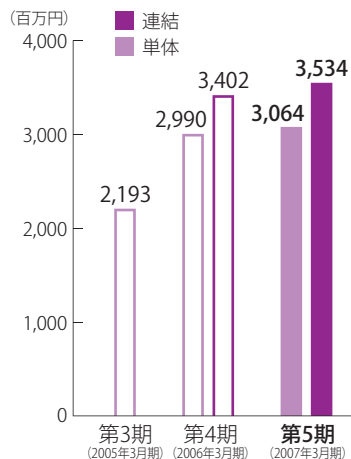
当期純損失



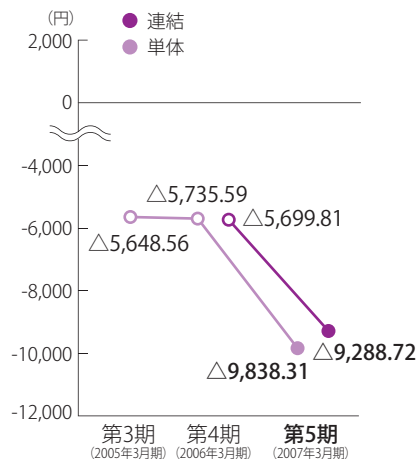
総資産



純資産



1株当たり当期純損失



■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在
資産の部		
流動資産	2,513,480	3,354,685
現金及び預金	2,022,641	3,032,714
売掛金 <small>POINT 1</small>	180,003	178,862
たな卸資産	61,565	84,438
前渡金	59,874	38,970
関係会社短期貸付金 <small>POINT 2</small>	139,628	—
その他	49,766	19,699
固定資産	1,700,826	1,005,878
有形固定資産	6,196	18,113
建物	5,346	12,222
工具器具備品	849	5,891
無形固定資産	386,906	135,914
営業権	—	125,714
のれん <small>POINT 3</small>	94,285	—
特許権 <small>POINT 4</small>	290,625	—
その他	1,995	10,199
投資その他の資産 <small>POINT 5</small>	1,307,723	851,850
資産合計	4,214,306	4,360,563

- POINT 1 「売掛金」
株式会社ソーレ 154百万円
- POINT 2 「関係会社短期貸付金」
株式会社ソーレ 139百万円
- POINT 3 「のれん」
株式会社ソーレ 94百万円
- POINT 4 「特許権」
旭硝子株式会社 PC-SOD特許譲受290百万円
- POINT 5 「投資その他の資産」
運用395百万円

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在
負債の部		
流動負債	419,370	303,862
買掛金 <small>POINT 6</small>	157,762	165,768
未払金 <small>POINT 7</small>	153,568	36,991
その他	108,039	101,101
固定負債 <small>POINT 8</small>	260,416	654,358
負債合計	679,786	958,221
資本の部		
資本金	—	1,504,721
資本剰余金	—	1,912,698
利益剰余金	—	△90,498
その他	—	75,421
資本合計	—	3,402,342
負債資本合計	—	4,360,563
純資産の部		
株主資本	3,439,047	—
資本金	1,852,558	—
資本剰余金	2,260,536	—
利益剰余金	△673,746	—
自己株式	△300	—
評価・換算差額等	95,471	—
純資産合計 <small>POINT 9</small>	3,534,519	—
負債純資産合計	4,214,306	—

- POINT 6 「買掛金」
株式会社ソーレ 156百万円
- POINT 7 「未払金」
旭硝子株式会社 PC-SOD特許譲受105百万円
- POINT 8 「固定負債(長期未払金)」
旭硝子株式会社 PC-SOD特許譲受210百万円
- POINT 9 「1株当たり純資産」「期末発行済株式数」
2007/3期末 53,982円74銭 65,476株
2006/3期末 59,488円79銭 57,193株



■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高 POINT 10	1,267,738	590,333
売上原価	827,602	240,926
売上総利益	440,136	349,407
販売費 及び一般管理費 POINT 11	1,365,323	992,891
研究開発費	790,443	565,829
その他の販売費 及び一般管理費	574,880	427,062
営業損失	925,187	643,484
営業外収益 POINT 12	377,984	377,325
営業外費用	6,144	20,983
経常損失	553,347	287,142
特別利益	—	9,999
特別損失	28,345	—
税金等調整前当期純損失	581,693	277,142
法人税、住民税 及び事業税	12,937	1,800
法人税等調整額	△11,382	19,310
当期純損失 POINT 13	583,248	298,253

POINT 10 「売上高」
 リポPGE1 96百万円、受託研究 80百万円、
 株式会社ソーレ 1,074百万円

POINT 11 「のれん代の償却」
 ソーレののれん代は160百万円で、
 これを5年で償却いたします。
 当期の連結の販売費及び一般管理費の中には、
 のれん代の償却33百万円が含まれています。

POINT 12 「営業外収益」
 中国合弁会社投資利益 232百万円、補助119百万円

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△524,715	△259,253
投資活動によるキャッシュ・フロー	△574,781	△385,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	89,424	1,678,475
現金及び現金同等物の増減額	△1,010,072	1,033,920
現金及び現金同等物の期首残高	3,032,714	1,998,794
現金及び現金同等物の期末残高	2,022,641	3,032,714

■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2006年3月31日 残高	1,504,721	1,912,698	△90,498	△195	3,326,726
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	347,837	347,837	—	—	695,674
自己株式の取得	—	—	—	△104	△104
当期純損失	—	—	△583,248	—	△583,248
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計	347,837	347,837	△583,248	△104	112,321
2007年3月31日 残高	1,852,558	2,260,536	△673,746	△300	3,439,047
	評価・換算差額等				純資産合計
	その他商品証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2006年3月31日 残高	△1,697	77,313	75,615		3,402,342
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	—	—	—		695,674
自己株式の取得	—	—	—		△104
当期純損失	—	—	—		△583,248
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額 (純額)	△4,335	24,191	19,856		19,856
連結会計年度中の変動額合計	△4,335	24,191	19,856		132,177
2007年3月31日 残高	△6,033	101,504	95,471		3,534,519

POINT 13 「1株当たり当期純損失」「期中平均株式数」
 2007/3期 △9,288円 62,791株
 2006/3期 △5,699円 52,327株

■ 貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在
資産の部		
流動資産	2,330,687	3,143,898
現金及び預金	1,951,948	2,972,676
売掛金	25,426	43,771
貯蔵品	42,966	69,853
前渡金	59,874	38,820
前払費用	5,980	7,192
関係会社 短期貸付金 POINT 1	203,600	—
未収還付消費税等	38,625	11,273
その他	2,265	309
固定資産	1,155,324	542,755
有形固定資産	—	10,541
建 物	—	6,289
工具器具備品	—	4,251
無形固定資産 POINT 2	290,625	7,735
投資その他の資産 POINT 3	864,699	524,479
資産合計	3,486,011	3,686,654

POINT 1 「関係会社短期貸付金」

株式会社ソーレ139百万円

POINT 2 「無形固定資産」

旭硝子株式会社 PC-SOD特許譲受290百万円

POINT 3 「投資その他の資産」

運用395百万円

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在
負債の部		
流動負債	161,457	41,633
買掛金	846	1,299
未払金 POINT 4	148,550	30,626
その他	12,059	9,707
固定負債	260,416	654,358
負債合計	421,873	695,992
資本の部		
資本金	—	1,504,721
資本剰余金	—	1,912,698
利益剰余金	—	△424,866
その他	—	△1,892
資本合計	—	2,990,661
負債資本合計	—	3,686,654
純資産の部		
株主資本	3,070,171	—
資本金	1,852,558	—
資本剰余金	2,260,536	—
利益剰余金	△1,042,623	—
自己株式	△300	—
評価・換算差額等	△6,033	—
純資産合計 POINT 5	3,064,138	—
負債純資産合計	3,486,011	—

POINT 4 「未払金」

旭硝子株式会社PC-SOD特許譲受105百万円

POINT 5 「1株当たり純資産」「期末発行済株式数」

2007/3期末 46,798円60銭 65,476株

2006/3期末 52,290円69銭 57,193株



■ 損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高 POINT 6	194,007	271,410
売上原価	4,356	4,977
売上総利益	189,651	266,433
販売費 及び一般管理費	1,138,665	886,793
研究開発費	790,443	565,829
その他の販売費 及び一般管理費	348,222	320,964
営業損失	949,014	620,360
営業外収益 POINT 7	382,298	332,939
営業外費用	6,144	20,962
経常損失	572,861	308,383
特別利益	—	9,999
特別損失	38,345	—
税引前当期純損失	611,207	298,383
法人税、住民税 及び事業税	6,550	1,742
当期純損失 POINT 8	617,757	300,126
前期繰越損失	—	124,739
当期未処理損失	—	424,866

「売上高」

POINT 6 リポPGE1 96百万円、受託研究 80百万円

「営業外収益」

POINT 7 中国合弁会社配当金 240百万円、補助119百万円

「1株当たり当期純損失」「期中平均株式数」

POINT 8
2007/3期 △9,838円 62,791株
2006/3期 △5,735円 52,327株

■ 株主資本等変動計算書

当事業年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
2006年3月31日 残高	1,504,721	1,912,698	△424,866	△195	2,992,358
事業年度中の変動額					
新株の発行	347,837	347,837	—	—	695,674
自己株式	—	—	—	△104	△104
当期純損失	—	—	△617,757	—	△617,757
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	347,837	347,837	△617,757	△104	77,812
2007年3月31日 残高	1,852,558	2,260,536	△1,042,623	△300	3,070,171
	評価・換算差額等		純資産合計		
	その他利益剰余金				
2006年3月31日 残高	△1,697		2,990,661		
事業年度中の変動額					
新株の発行	—		695,674		
自己株式	—		△104		
当期純損失	—		△617,757		
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)	△4,335		△4,335		
事業年度中の変動額合計	△4,335		73,476		
2007年3月31日 残高	△6,033		3,064,138		

研究開発部門の内部統制システムの構築

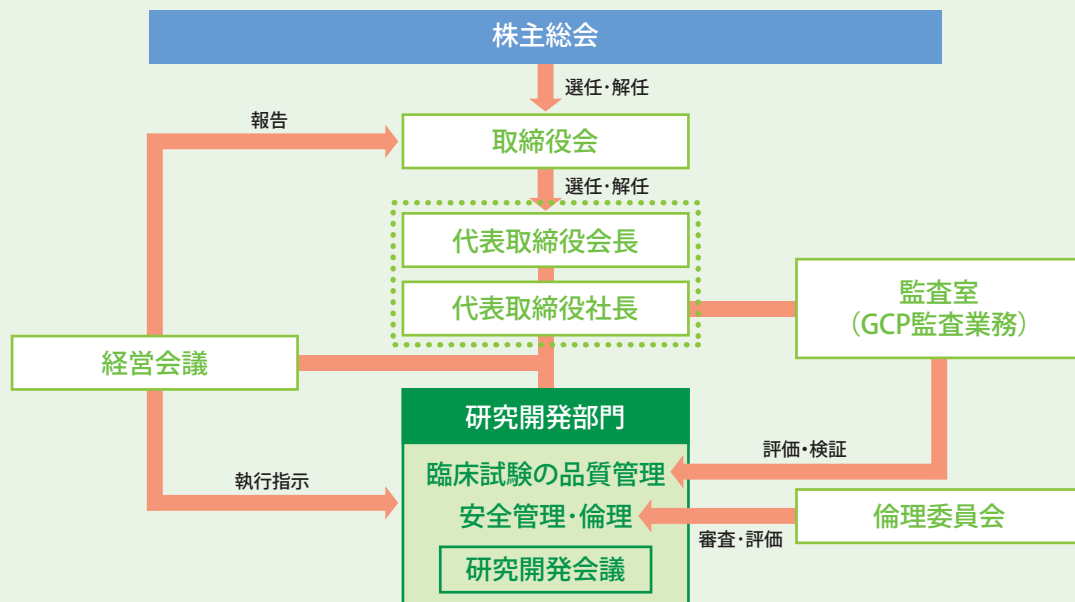
当社は、業務活動全般に関して内部監査を実施しておりますが、医薬品の研究開発に特化した企業として、新薬および治療技術の開発におけるコンプライアンス、リスク管理等の重要性に鑑み、研究開発部門に対する内部統制システムの充実に努めております。

臨床試験の信頼性向上

品質保証活動の一環として、社長直轄の監査室が、GCP（臨床試験実施基準）監査業務を実施、臨床試験がGCP、薬事法、治験実施計画書、標準業務手順書等を遵守して行われているかを被監査部門から独立して評価・検証します。

安全管理、倫理の確保

外部の委員を含めた5名以上で構成される倫理委員会が安全管理および倫理的観点から審査・評価を行います。



※内部統制の全文につきましてはホームページ <http://www.ltt.co.jp/company02.html> をご覧ください。



会社概要 (2007年3月31日現在)

- 社名 株式会社LTTバイオフーマ
(英文社名) LTT Bio-Pharma Co., Ltd.
- 設立 2003年1月
- 本社所在地 東京都港区愛宕二丁目5番1号
愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
- 資本金 18億5,255万8,712円
- 従業員数 22名
うち派遣社員5名、嘱託1名
- 事業内容 医薬品の研究開発 等

■ 役員 (2007年6月27日現在)

- 代表取締役
会 長 水島 裕
- 取 締 役
副 会 長 齋藤 栄功 (2007年9月1日付 就任)
- 代表取締役
社 長 山中 譲
- 取 締 役 増田 央郎
- 取 締 役 西山 利己
- 取 締 役 水島 徹
- 取 締 役 三井 恵介
- 常勤監査役 河内 康平
- 監 査 役 石山 和次郎
- 監 査 役 近藤 廣志

株式の状況 (2007年3月31日現在)

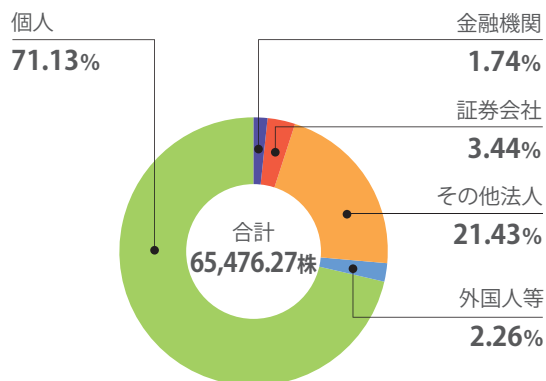
- 発行可能株式総数 ————— 200,000株
- 発行済株式総数 ————— 65,476.27株
- 株主数 ————— 7,636名

■ 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
水島 裕	8,065	12.31
(株)水島コーポレーション	5,800	8.85
水島 綾子	2,900	4.42
水島 昇	2,340	3.57
(株)アスケレピオス	2,320	3.54
(株)ブレインカンパニー	2,150	3.28
水島 広子	2,120	3.23
(株)東京ウエルズ	1,613	2.46
プロジェンズジャパン(株)	1,287	1.96
湘南信用金庫	774	1.18

※出資比率は自己株式(1.27株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



■株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日

定時株主総会

3月31日

期末配当金受領株主確定日

3月31日（中間配当金の支払いを行うときは9月30日）

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連絡先

〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

[お問合せ]

0120-232-711 (通話料無料)

[各種手続用紙のご請求]

東京 0120-244-479 (通話料無料)

大阪 0120-684-479 (通話料無料)

同 取 次 所

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

野村證券株式会社 全国本支店

公 告 の 方 法

当社の公告方法は、電子公告とします。

(公告掲載アドレスは <http://www.ltt.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページリニューアルのご案内

ホームページをリニューアルし、当社最新のトピックスをお伝えする「LTTニュースメール」(メールマガジン)の配信を開始しました。登録制となっておりますのでホームページよりお申し込みください。



トップページ

<http://www.ltt.co.jp/>

お申し込みは
こちらから。

IRページ

<http://www.ltt.co.jp/ir/ir01.html>

■IRに関するお問合せ

経営管理本部

TEL: 03-5733-7391 FAX: 03-5733-7397

E-mail: ir-info@ltt.co.jp

証券コード: 4566

 **LTT Bio-Pharma**

株式会社LTTバイオフาร์ม

〒105-6201 東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

**PRINTED WITH
SOYINK**

地球環境に配慮した大豆油墨を使用しています。